

第5章 受入環境整備

愛荘町観光の課題を解消するための受入環境整備には時間と経費が必要です。以下の内容については長期的な視点とまちづくり全体の視点をもって各種関係団体が連携のうえ環境整備を目指して協議をしていきます。

1 観光客を誘導する案内表示の充実

携帯電話・スマートフォンの普及により、目的の観光地にスムーズに行くことができる環境にはありますが、観光地から観光地に行く途中、観光客が案内表示を見ることで興味・関心をもち、愛荘町に立ち寄るきっかけになる場合があります。

とりわけ中山道愛知川宿沿いには、歴史的ないわれのある場所があるにも関わらず、案内表示が不足している感が否めません。

観光客を誘導する仕掛けのひとつとして、統一した案内表示の充実を目指します。

2 歩行者空間・サイクリング空間の構築

駅から観光地まで、観光地から観光地までの二次交通に課題のある本町にとって、中山道エリアと近江鉄道愛知川駅、伝統産業の交流拠点が位置するエリアとを結ぶ約2kmの範囲をウォーカブル・ゾーンとして位置づけ、来訪客等が徒歩やサイクリングで快適な観光を楽しむことができるよう、持続可能な市街地の形成を目指します。

※ウォーカブル・ゾーンとは・・・

居心地が良く、歩きたくなるまちなかのこと。

3 二次交通や町内を周遊するアクセス手段の確保

公共交通機関を利用して来られる観光客にとっては駅から観光地まで、観光地から観光地までのアクセスに不便さがあり、スムーズに周遊していただくアクセス手段に課題があります。

観光客の視点に立ってアクセスしやすい、周遊しやすい環境整備に向けて協議・検討を進めていきます。